教第　６７　号議案

令和４年度全国学力・学習状況調査の参加と結果の公表方針について

令和３年度全国学力・学習状況調査の結果報告及び今後の取組について別紙１のとおり報告する。

令和４年度全国学力・学習状況調査に別紙２のとおり参加する。

令和４年度全国学力・学習状況調査に関する結果の公表方針を別紙３のとおり定める。

令和４年２月８日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長　　長谷川　達也

（別紙１）

１．令和３年度の結果報告及び今後の取組

（1）神戸基礎学力向上推進委員会による分析等

・各教科の学識経験者等が参画し、９月～１２月にかけて複数回の委員会を開催した。特に今年度は学識経験者が教育実践研修グループのとりまとめ担当校の授業を見学した上で分析や授業改善等の指導をいただいた。

・学識経験者等には、今年度の調査結果の分析、授業改善のポイント等に加えて、今後、数年継続して取り組むべき授業等の改善についてのポイントを「学力向上に向けた視点」（Ｐ．３～４）として示していただいた。

〔視点抜粋〕

・習得から活用を見据えて単元計画を立てる

・児童生徒の生活習慣や学習への意識をふまえて支援する

等

（2）視点・分析等を踏まえた授業改善資料の作成

・調査結果の分析等を踏まえて、結果の詳細や教科毎の分析等を記載した報告書（データ分析版）及び、視点・課題を踏まえた指導方法の改善・工夫のポイントを示した授業アイデア版を作成した。（Ｐ．５～８）

（3）今後の取組

・調査報告書（データ分析版）を各校１冊、授業改善のポイント（授業アイデア版）を全教員に配付し、校内研修や教育委員会が主催する教科別の研修会等で活用する。

・教育実践研修グループにおいて、授業実践を通して授業力を高める研修を充実させる。

・自らの授業をふり返るセルフチェックシート（自己評価シート）を活用し、授業改善を進めるとともに、進捗状況を各校での検証改善計画にフィードバックさせる。

（別紙２）

２．令和４年度全国学力・学習状況調査への参加

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査内容・対象・教科等

①調査内容

・教科に関する調査

・学習意欲や学習方法、生活の諸側面等に関する児童生徒質問紙調査

※文科省通知により、児童生徒質問紙調査に関して希望する学校は学習用パソコン（端末）を用いた調査（ＣＢＴ（Computer Based Testing））が可能とされている。

〈参考：国のＣＢＴに関する見通し〉

児童生徒質問紙調査は、令和６年度にはオンラインによる回答を全面導入し、教科調査については、令和７年度以降速やかに中学校から先行導入し、その後小学校に導入予定

・学校質問紙調査

②対象及び教科

小学校第６学年　168 校　12、830 名・・・国語、算数、理科（3 年に一度実施）

中学校第３学年　 87 校　11、385 名・・・国語、数学、理科（3 年に一度実施）

（３）調査実施日

令和４年４月 19 日（火）　※後日実施の期間は 4 月 20 日（水）～5 月 20 日（金）

※端末を用いた児童生徒質問紙調査は 4 月 19 日（火）～28 日（木）の間で実施

〔Ⅱ〕学力向上に向けた視点（神戸基礎学力向上推進委員会より）

神戸基礎学力向上推進委員会は、全国学力・学習状況調査及び神戸市学力定着度調査結果の分析及び検証改善策の検討を行うにあたり、専門的な見地から幅広く意見を求めるために開催されています。本年度は、①各調査結果の概要を把握　②小・中各教科の教育実践研修グループの取組の確認　③各教科の取組成果と課題について検討　を行い、今後の授業改善の進め方等についてまとめました。

毎年度の調査結果をもとに改善を図るだけでなく、今後も継続して取り組むべき授業等の改善について、神戸基礎学力向上推進委員会から視点を示していただきました。

【学力を伸ばす学びに向けて】

一、習得から活用を見据えて単元計画を立てる

習得した「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等の育成」が必要です。習得（インプット）は、活用（アウトプット）を見据えて行うように、単元計画を行いましょう。

また、「評価」は児童生徒の学習改善に役立てることが大切です。評価をもとに授業改善をすることは当然ですが、児童生徒一人一人が自分の学習を振り返り、学びを深めたり広げたりできるようにしていきましょう。

二、「学び方」が身に付く授業を徹底する

「概念化して考える」ことや「言語能力を身につけること」は共通する課題です。カリキュラム・マネジメントの観点から、教科等横断的に、児童生徒の資質・能力の育成を図りましょう。また、「目標の確認」や「振り返り」など、学び方を一般化していきましょう。

三、児童生徒の生活習慣や学習への意識をふまえて支援する

個々の児童生徒の課題は何か、どう伸ばしていくかについて、教科調査と質問紙調査の結果の両方を検討したときに、必要な支援が浮かび上がってきます。

四、家庭学習においても「主体的な学び」を大切にする

「漢字の書き取り」「計算」「単語の暗記」などを重視しすぎていたり、「家庭学習」がそれらの反復学習のみに偏りすぎていたりすることは、児童生徒の「資質・能力」の育成に十分につながるとは言えません。「なぜ行うか」「何を目的としているか」を明確にし、「授業と反復学習」「授業と家庭学習」のつながりを再考しましょう。

また、授業に向けた事前学習（反転学習）も「主体的な学び」につながるひとつの方法です。

五、家庭の協力を得られるよう働きかける

生活習慣は児童生徒の学力と大きく関わります。決まった就寝時刻や起床時刻を心掛け、適切な睡眠時間を確保することや、朝食を摂るようにするなど、家庭の協力・支援が得られるように働きかけることが必要です。

【学びを支える教員として】

六、主体的に授業を改善する

学力保障・学力向上は、児童生徒一人一人を対象にするものであることを認識する必要があります。そのためには一人一人の教員の授業に大きな責任があります。だからこそ日々、授業改善の視点をもって授業を行うことが大切です。

七、授業実践を通して授業力をつける

授業改善に取り組む際に、一人で悩んでいたり、時間がなかったりする状況があります。各教科の授業研究や研究会、実技講習会など、教育実践研修グループの取組に積極的に参加し、自らの授業力を高めていくことが大切です。また、学校を超えた教員のつながりをはかることも大切です。

八、小・中それぞれの強みを取り入れる

小学校・中学校それぞれに課題があります。また、小学校・中学校それぞれに強味もあります。小学校の学び・中学校の学びを理解し、互いの良さや課題を共有し、連携強化を図ることが必要です。

九、教材研究・指導案づくりはチームで取組む

校内や教育実践研修グループの領域別・地区別授業研究は、授業力を伸ばす格好の機会です。教材研究・指導案づくりは、授業をする教員だけでなく、当該学校の教科や学年全体で行い、授業研究を自分事にしましょう。

十、「他者に伝える」ことで自らの学びも深める

研修を受けた教員が、教科打合せ会や職員研修等により職員間に広め、また、学んだことを普段から授業づくりに生かしていくことが大切です。

令和３年度

全国学力・学習状況調査　神戸市学力定着度調査　報告書

神戸市データ分析版

児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて

令和４年２月

神戸市教育委員会・神戸基礎学力向上推進委員会

令和３年度

全国学力・学習状況調査および神戸市学力定着度調査の結果分析に基づく

神戸市授業アイデア版

児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて

令和４年２月

神戸市教育委員会・神戸基礎学力向上推進委員会

２－２　中学校２年国語

教科全体の状況

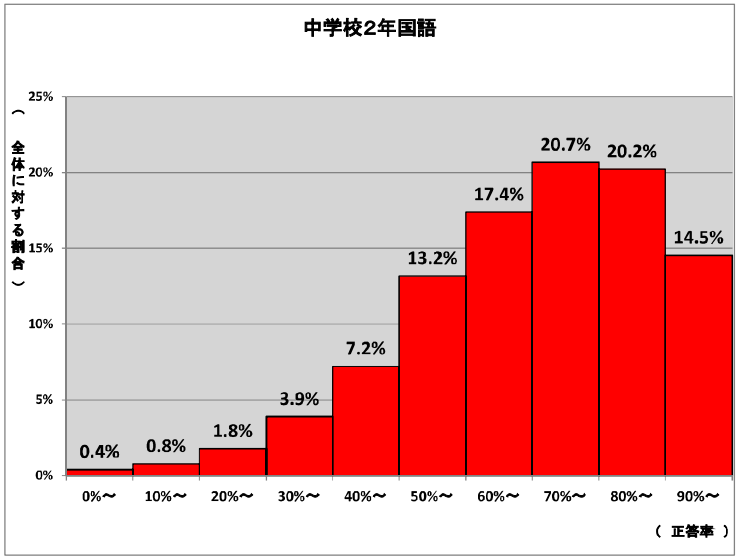
設問数	市平均正答率	参考値
31	70.2%	68.5%

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別集計結

分類	区分	設問数	市平均正答率	参考値	市平均正答率と参考値の差
学習指導要領の領域等	話す・聞くこと	4	80.6%	81.5%	−0.9%
	書くこと	8	52.7%	53.2%	−0.5%
	読むこと	7	65.3%	62.5%	2.8%
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	81.2%	77.8%	3.4%
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	9	65.0%	66.0%	−1.0%
	話す・聞く能力	4	80.6%	81.5%	−0.9%
	書く能力	9	53.7%	54.2%	−0.5%
	読む能力	10	61.7%	59.0%	2.7%
	言語についての知識・理解・技能	13	80.1%	76.9%	3.2%
基礎・活用別	基礎的・基本的な知識や技能に関する問題	24	73.1%	71.5%	1.6%
	知識や技能の活用に関する問題	7	60.1%	58.0%	2.1%

正答率の分布



設問ごとの状況

【解答形式】（選択）選択式　（短答）短答式　（記述）記述式
【基礎活用】（基）基礎・基本に関する問題　（活）活用の力に関する問題
【観　　点】（関）国語への関心・意欲・態度　（話聞）話す・聞く能力（書）書く能力
（読）読む能力　（言）言語についての知識・理解・技能
【領　　域】（話聞）話すこと・聞くこと　（書）書くこと　（読）読むこと
（言語）伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	基礎・活用 基	基礎・活用 活	観点 関	観点 話聞	観点 書	観点 読	観点 言	領域 話聞	領域 書	領域 読	領域 言語	出題のねらい	学習指導要領	特定正答率	参考値
1	1	(1)		選択	◎		○	◎				◎				聞き手に理解してもらうための話し方の二点を聞き取ることができる。	1年A(1)エ	82.6	84.1
2		(2)		選択	◎		○	◎				◎				話の内容を正確に聞き取ることができる。		87.5	87.1
3		(3)		選択	◎		○	◎				◎				司会者の工夫を聞き取ることができる。	1年A(1)オ	81.6	83.6
4		(4)		記述		◎	○	◎	○			◎				相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめることができる。		70.9	71.2
5	2	(1)	①	短答	◎						◎				◎	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。	1年伝国(1)ウ(ア)	74.7	76.5
6			②	短答	◎						◎				◎			84.8	80.8
7			③	短答	◎						◎				◎			98.4	97.9
8			④	短答	◎						◎				◎			97.1	94.2
9		(2)	①	短答	◎						◎				◎	小学校で学習した漢字を書くことができる。	1年伝国(1)ウ(イ)	79.1	78.4
10			②	短答	◎						◎				◎			74.0	72.3
11			③	短答	◎						◎				◎			65.4	50.4
12			④	短答	◎						◎				◎			86.0	82.9
13	3	(1)		短答	◎						◎				◎	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。	1年伝国(1)ア(ア)	93.4	85.3
14		(2)		短答	◎						◎				◎	単語について理解している。	1年伝国(1)イ(エ)	71.2	65.1
15		(3)		選択	◎						◎				◎	文節の関係について理解している。		60.1	59.9
16		(4)		選択		◎					◎				◎	故事成語について理解している。	1年伝国(1)イ(イ)	90.8	89.9
17	4	(1)		選択	◎					◎				◎		文章の題材に即して内容をとらえることができる。	1年C(1)イ	71.2	69.5
18		(2)		選択	◎					◎				◎		文章の構成や展開をとらえることができる。	1年C(1)エ	48.4	47.3
19		(3)		選択	◎					◎				◎		文章の展開に即して要旨をとらえることができる。	1年C(1)イ	76.4	72.8
20		(4)		短答		◎				◎				◎		文章の展開をとらえて、その内容を整理することができる。		72.0	67.8
21	5	(1)		選択	◎					◎				◎		登場人物の心情をとらえることができる。	1年C(1)ウ	62.3	60.3
22		(2)		選択	◎					◎				◎		文章の表現の特徴をとらえることができる。	1年C(1)エ	74.4	71.1
23		(3)		選択		◎				◎				◎		登場人物の心情の変化をとらえることができる。	1年C(1)ウ	52.1	48.4
24	6	(1)		選択		◎			◎	○			◎			意見をもとに、伝えたいことを明確にして書くことができる。	1年B(1)オ	56.5	54.3
25		(2)		短答		◎			◎	○			◎			伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書くことができる。	1年B(1)ウ	50.7	48.6
26		(3)		記述		◎	○		◎	○			◎			伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くことができる。		27.5	26.0
27	7			記述	◎		○		◎				◎			指定された文字数で書くことができる。	1年B(1)イ	55.9	58.0
28				記述	◎				◎		○		◎			3段落構成で文章を書くことができる。		52.1	54.6
29				記述	◎		○		◎				◎			読み取った内容を明確にして書くことができる。	1年B(1)ウ	67.6	68.2
30				記述	◎		○		◎				◎					54.4	56.7
31				記述	◎		○		◎				◎			自分の考えを明確にして書くことができる。		56.6	58.8

小学校「理科」分析結果

〇理科５年生（定着度調査）

（１）基礎・活用、領域・評価ごとの調査結果分析　　※全国平均（実施校平均）との比較

領域・評価の観点	調査結果	調査の分析（考察等）
全体	−12.2	・全体を通して大きな課題が見られる。
基礎的・基本的な知識や技能に関する問題	−14.3	・「基礎」「知識・技能」「短答」の正答率が極端に低いことから、知識・技能や、重要語句の定着に特に大きな課題があると言える。また、「活用」「思考・判断・表現」の正答率も低いことから、「問題解決の過程」や、「学びを生活に繋げる過程」を重視した授業が十分に行われていない可能性がある。
知識や技能の活用に関する問題	−8.0	
物質・エネルギー領域	−12.7	
生命・地球領域	−11.9	
知識・技能	−14.3	
思考・判断・表現	−10.1	
主体的に学習に取り組む態度	−12.6	・質問紙によると、「理科が好きだ（84.8%）」と答えた児童は多かった。理科に対する関心は高いと言える。「理科が分かる（92.2%）」と答えた児童は多かったが、正答率には課題が見られた。児童が分かったつもりになっている可能性がある。児童主体の問題解決活動、学びを生活に繋げていく活動が十分に行えていない可能性がある。

（２）課題の見られた領域・観点における具体的な設問について

1（１）オオカマキリの季節ごとのようすについて問う問題（平均正答率46.8%）
2（２）１日の気温変化のグラフから晴れの日を判断し、理由を説明する問題（平均正答率36.8%）
4（１）直列つなぎの名称を問う問題（平均正答率48.1%）
（３）乾電池を直列つなぎ・並列つなぎにしたときの検流計の針の振れ方を問う問題（平均正答率36.2%）
5（１）方位磁針の正しい使い方を問う問題（平均正答率35.6%）
9（１）水は高い場所から低い場所へ流れることについて問う問題（平均正答率59.8%）
10（１）水を冷やした時の温度変化のグラフについて問う問題（平均正答率39.1%）

（３）良好な状態の継続や課題に対する指導方法の工夫・改善のポイント

①児童が「確かめたい」と思える授業導入
→身近な事物・現象から児童が問題を見いだせるようにすることで、児童主体の問題解決活動を実現する。
→教科書の「思い出してみよう」等を活用し、生活経験や既習内容を想起する活動を設定する。その内容と新しいテーマを繋げることで、児童が「見方・考え方」を働かせて考えられるようにする。
②問題解決の過程の重視
→データ配布している「学び方カード」を黒板に貼るなどし、問題解決の過程やポイントを確認する。
→問題解決の過程を明記したノートづくりをすることで、児童の思考の流れを可視化する。
③学びを生活に繋げる場面の設定
→ポイントに沿って振り返りを書き、交流する場面を設定することで、生活との繋がりを意識できる。
→学習者用端末で「理科と生活との繋がり」を撮影・交流する活動により、学びを生活に繋げる。
④学んだことを定期的に振り返る機会の設定
→「用語集」「〇学期の振り返りテスト」「タブレットドリル」「東書webライブラリ」等の資料の適切な場面での活用を推進する。
※「授業改善アンケート」を３回に分けて行い、上記のことについて教師が授業を振り返る機会とする。

中学校「英語」分析結果

〇英語２年生（定着度調査）

（１）基礎・活用、領域・評価ごとの調査結果分析　　※全国平均（実施校平均）との比較

領域・評価の観点	調査結果	調査の分析（考察等）
全体	5.9	・全国平均正答率と比較して、基礎問題、活用問題とも上回っており、定着度は概ね良好である。正答率度数分布が正規分布ではなく台形を示していることから、基礎学力が定着していない生徒への支援も課題の一つであると思われる。
基礎的・基本的な知識や技能に関する問題	5.5	
知識や技能の活用に関する問題	6.5	
聞くこと	3.7	
読むこと	5.1	
書くこと	8.9	・「聞くこと」については概ね良好であるが、「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題」において正答率が低い。質問に対し適切な答えがわかっていても、正しく「書くこと」ができず不解になっている可能性もある。
外国語表現の能力	8.3	
外国語理解の能力	4.4	・「読むこと」についても概ね良好であるが、「読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題」において正答率が低い。
言語や文化についての知識・理解	6.2	・「書くこと」については、全国平均と比べると数値的には上回っているものの、他の領域に比べると正答率は下がる。特に「まとまった内容で説明する文を書く」ことについて課題がある。

（２）課題の見られた領域・観点における具体的な設問について

・「聞くこと」について、“When did she come here?”とたずねられたのに対し、ホームページ画面の入園日に、2021 年３月と書かれているので、“She came here in March.”というのが正答であるが、「内容が伝わるような文法的な誤りがある回答」が30%、「無回答」の生徒が27.4%に上った。
・「読むこと」について、日曜日に図書館でしようとしていることをメールの中から探して答える問いであるが、(　　)内に１語を入れるような解答形式に慣れており、今回の形式に合った解答ができなかった可能性がある。

（３）良好な状態の継続や課題に対する指導方法の工夫・改善のポイント

・子供たちが「学んでいる実感」がより高まるような授業づくりが必要。生徒にどんな力をつけたいのかを明確にすることと合わせて、子供たちが自らの学習をふり返り、次にどんなところを伸ばしたいか学習の自己調整をする場面をつくる。
・「内容が伝わるような文法的な誤り」については、目的、場面、状況を設定した上で言語活動を行い、実際に英語を使いながら、よく出てくる誤りについてクラス全体で共有することで改善を図る。
・「聞いたり」「読んだり」したことを、「話したり」「書いたり」するような統合的な言語活動を授業中あるいは単元の中で設定し、指導しフィードバックする。

中学校　社会《地理・歴史的分野》 授業アイデア例

１．調査結果から見る課題

（１）地理的分野に関しては、方位を読み取るために適切な正距方位図法を選択し、それをもとに判断するという地図の理解に関してやや誤題が見られる。

（２）歴史的分野に関しては、「御恩と奉公」に関する語句の理解と初見の資料を見て、情報を分析、思考・判断する問題にやや課題が見られる。

（３）記述問題については、「モノカルチャー経済」の国が抱える課題について、内容が不十分な答え（25.6%）、それ以外の解答（29.4%）、無解答（25.0%）となっており、資料の読み取りから地球規模で抱えている課題の理解及びその表現力の獲得にやや課題が見られる。

２．改善のための指導方法の工夫・改善のポイント

（１）地図やグラフ等、複数の資料を活用し、その資料から分かることを自分の言葉で説明したり、文章でまとめたりする活動を授業の中に積極的に取り入れる。

⇒ **複数の資料を比較・関連付け、多面的・多角的に考察し、正しく判断できるようにする。**

（２）導入では、主体的に学ぶ意欲を向上させるために、授業における本時の学習目標・ねらいをしっかり理解し、思考・表現できるような問いの設定を工夫する。

⇒ **学習目標の達成を意識した問いの設定を工夫する。**

（３）展開では、グループ学習などの活動の中で、自分の考えを相手に伝えるとともに、他者との意見共有をはかり、客観的に自分の考えを捉えることができるように、多面的・多角的な視点を取り入れる学習内容を工夫する。

⇒ **自分の考えを広げたり、深めたり、まとめたりできるようにする。**

（４）学習のまとめとして、学んだことを自分の言葉で説明し、文章で表し、それをグループ、学級で共有する取組を授業内に取り入れる。

⇒ **考えたことや学んだことを自分の言葉でまとめ、適切に表現する言語力の充実をはかり、グループなどでの共有を行う。**

３．授業におけるアイデア例

★「言語能力」の育成場面の例

（１）地理分野　世界の様々な地域調査や身近な地域調査において、地図や資料などを有効に活用し、事象を説明したり、生徒の解釈を加えて論述したり、グループで意見交換したりするような学習活動

（２）歴史分野　時代を大観し表現する活動や各時代における変革の特色を考えて、時代の転換の様子をとらえる学習を通じて、歴史事象について考察、判断し、その成果を生徒の言葉で表現するような学習活動

（３）対話による学習の深化
教材との対話やペア・グループ活動を導入し、生徒の考えに多面的、多角的な視点を取り入れ、学びが深まるように学習形態の変化に工夫をした活動

★授業構成を重視し、複数の資料を活用しながら、「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した授業アイデア例

第２章　中世　武家政権の成長と東アジア

単元を貫く問い「中世において人々がそれぞれに結びつきを強めていった目的は何か。」

本時の目標「武士の成長に関する絵画や絵巻物を読み取り、武士が力をつけていく過程をまとめる。」

【導入】

前時の復習、本時の見通し

(1)前時代からの社会の変化を理解するために、年表などを用いて確認する。
(2)社会の変化から武士がなぜ誕生したのかを各自で予想し、ワークシートに記入する。
(3)【学習課題「武士はどのようにして力をつけていったのだろうか」】を提示する。

アイテア②　学習目標の達成を意識した問いの設定を工夫する。

【展開】

資料の読み取り

(4)グループで、Teams に挙げている３つの資料を確認する。
①『粉河寺縁起絵巻』　②『春日権現験記絵』　③『平治物語絵巻』

(5)資料を見ながら、武士の様子、状況を確認し、変化を読み取る。
→①地方の警備の様子
②天皇や貴族を警備している様子
③争乱の中心となっている様子

※生徒たちの習熟具合によっては、様々な資料を自分たちで端末を用いて、検索をして収集し、検討してもよい。

アイテア①　複数の資料を比較・関連付け、多面的・多角的に考察し、正しく判断できるようにする。

(6)班ごとに意見をまとめ、発表できるように Skymenu の「発表ノート」にまとめていく。※Teams を使ってもよい。

言語活用能力・思考力・判断力・表現力の活用

アイテア③　自分の考えを広げたり、深めたり、まとめたりできるようにする。

(7)教師の端末に「発表ノート」を提出する。

【思考・判断・表現】の視点
武士の立場が、地方の警備や都の警備などから、貴族をしのぐ力を持つ立場に変化していく様子をまとめることができている。

【まとめ】

(8)各班ごとに「発表ノート」を見ながら、変化した様子について自分たちの意見を発表し、グループや学級で共有し、意見交流を行う。

アイテア④　考えたことや学んだことを自分の言葉でまとめ、適切に表現する言語能力の充実をはかり、グループなどでの共有を行う。

言語活用能力・思考力・判断力・表現力の活用

(9)「武士がどのようにして力をつけていったのか」をワークシートに自分の言葉でまとめる。
(10)学習の振り返りを行う。

振り返り（メタ認知）

・授業の初発の予測と学習後の変化を自分の言葉で表現する。
・学習して理解したこと、疑問に思ったことなどをまとめ、教師は学習を改善するために記載された内容を生かしていく。
・学習した内容の復習や次回の学習のために、家庭学習のテーマなどを提示する。